

「手に取るな やはり野に置け 蓮華草 (瓢水)」の蓮華草とは何かを年初に考える

下は私が所属しているある会の会報 2020 年 1 月号から抜粋したものです。

### 3. やはり野に置け



写真 3 蓮華草<sup>(2)</sup>

「情報ソース原位置管理」について考えを巡らせていた際、次の俳句が連想されて出てきました。比較的ポピュラーな句です。(特に中七の「やはり野に置け」が有名)

手に取るな やはり野に置け 蓮華草 (瓢水)

・作者、瓢水とは兵庫県が生んだ江戸時代中期の俳人、滝野瓢水（滝瓢水とも号する）です。

・注釈: ※2 蓮華草 (写真 3) は野に咲くから美しく見えるのであって、それを摘んできて家の中に飾っても調和せず、美しく見えない。

・滝野 瓢水：貞享 2 年 (1684 年) 播磨国加古郡別府村に生まれる。生家は千石船七艘を有する富裕な廻船問屋だったが、瓢水の遊蕩乱費のため没落する。

※2 美しい花は触らずに、元の場所に置いておきなさい、の意のようですが、実際には瓢水が大阪の色町で遊んでいたころ、友人が遊女を身請け、つまり「お持ち帰り」しようとするのをいさめた句だと言われています。

(遊女は遊郭に居てこそ美しい : 写真 4)



写真 4 大阪の遊女<sup>(3)</sup>

(2) net より公開 (フリー) 写真素材

(3) 大阪歴史博物館、「ニャンダフル・浮世絵ねこの世界展 2019」パンフ <http://www.mus-his.city.osaka/>

(4) 刀田山鶴林寺、公式 HP <https://www.kakurinji.or.jp/>

「手に取るな やはり野に置け 蓮華草 (瓢水)」は加古川においてはあまりにも有名な句です。加古川市別府町の法蔵寺には瓢水の筆塚もあります。

さて、引用した会報での解釈では「蓮華草」は蓮の花です。私の解釈は野原に生えている蓮華 (レンゲ) です。遊女のあまりの美しさや気高さを表すには蓮の花がふさわしいかもしれませんが、しかし蓮そのものは水生植物であり、野に置けとは言わないでしょう。また、この句からは花が野にあることによって、艶やかではないが控えめの美しさを楽しむ通 (つう) の心情・心意気が漂ってきます。

以下に Wikipedia の記事を引用しましたが、この記事からも蓮華草は田んぼなどによく見かける蓮華の花であることは間違いがないでしょう。

さらに大辞林の解説も示します。

### 大辞林 第三版の解説

てにとるなやはりののにおけれんげそう【手に取るなやはり野に置け蓮華草】

〔遊女を身うけしようとした人をいさめて、播磨はりまの瓢水ひょうすいという人物が作った俳句といわれる〕

れんげ草のような野の花は、やはり野原に咲いているのが似つかわしい。ものには、本来それにふさわしい場所というものがある。取らずともやはり野に置け蓮華草。

### 滝野瓢水 (Wikipedia)

滝野 瓢水 (たきの ひょうすい、貞享元2年〈1684年〉 - 宝暦12年5月17日〈1762年7月8日〉) は、江戸時代中期の俳人。滝瓢水とも。

播磨国加古郡別府村に生まれる。通称は叶屋新之丞のち新右衛門。生家は千石船七艘を有する富裕な廻船問屋だったが、瓢水の遊蕩乱費のため没落する。

同時代の書物には、「生得無我にして洒落なれば笑話多し」、「俳事に金銀を擲ちて後まづしかりしも、心にかけてぬ大丈夫」と記されている。洒脱な中にも人間味のあふれる作品を残した。

### 作品

(大阪の知人が遊女を身請けしようとしていたのを諷めて詠んだ句) [注 1]

手に取るなやはり野に置け蓮華草

(※1) この蓮華草から Wikipedia の記事をたどると次のゲンゲ (Wikipedia) が出てくる。

ゲンゲ (紫雲英、翹搖 *Astragalus sinicus*) はマメ科ゲンゲ属に分類される越年草である。中国原産。レンゲソウ (蓮華草)、レンゲとも呼ぶ。



### ハス (Wikipedia)

#### 名称など

日本での古名「はちす」は、花托の形状を蜂の巣に見立てたとするのが通説である。「はす」はその転訛。

水芙蓉 (すいふよう、みずふよう)、もしくは単に芙蓉 (ふよう)、不語仙 (ふごせん)、池見草 (いけみぐさ)、水の花などの異称をもつ。

漢字では「蓮」のほかに「荷」または「藕」の字をあてる。

ハスの花と睡蓮を指して「蓮華」(れんげ) といい、仏教とともに伝来し古くから使われた名である。